

祖母の幸せみかん

埼玉県ふじみ野市立上野台小学校

五年

関 郁絵

祖母の家の庭先には、温州みかんの木が一本あります。豊作の年もあれば不作の年もあります。大きな木ではないけれど、毎年必ず実をつけてくれるので家族みんなで楽しみにしています。今年の元日、祖母の家に行きました。

「みかん、いくつか取らずに残しておいたからね。取っておいでね。」

祖母はみかんの収穫を私に残しておいてくれます。それは私が小さいころから、毎年恒例の行事です。

私が生まれて初めて食べたみかんも祖母の家のみかんだったそうです。売られているみかんより形は不格好。甘さもすごく甘いわけでなく、ものによっては酸っぱいものもあります。赤ちゃんだった私は酸っぱそうに顔をしかめながらも、もつと食べたいと泣いてせがみ、六年前に亡くなった祖父が笑っていたという思い出話を母がしてくれました。

祖母にみかんを育てるのに大変な事はどんな事か聞いてみました。一つ目は、木を育てる場所は日当たりが良く、水はけのよい場所でないといけないので、木を植える場所を決定するのに苦戦した事。二つ目に、アゲハチョウの成虫が、たまごを産んで成長した青虫が葉を食べてしまうので、手入れがかかせない事。三つ目に根に栄養がいきわたるように肥料やふ葉土をまかなければいけない事などがありました。たくさん苦労や作業をおしまず、時間をかけて育てる事で美味しいみかんがなっていた事にはっとさせられました。

今年、私が収穫したみかんは、一口一口祖母に感謝して大切に味わって食べました。

「今年も、おいしいね。」

食べている家族みんな笑顔です。祖母も嬉しそうにほほえんでいました。ちよつぱり酸っぱいけれど、愛情たっぷりの、最高に美味しいみかん。大好きな幸せのみかんです。